

あ と が き

最近よく目にするようになったSDGs（エスディージーズ）という言葉は、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称であり、2015年に国連で開かれたサミットの中で決められた、国際社会共通の目標です。この目標を設定する必要性は、現在や将来の社会の変化を予測的に評価をし、その変化に対応できる社会をつくらなければならないというところにあります。内容を見ると、「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」で構成されており、私たちの生活に関わりがある目標がたくさん掲げられています。

第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿「Society5.0」が、狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すものとして初めて提唱されました。これは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会、と説明されています。

このように、「社会の変化」に対応した物事の考え方や捉え方の変革について、様々な場で議論されるようになっていきます。本校では、子どもたちの将来像を教師として描きながら、変化に対応する力を育てることや、主体的に自己の目標を設定し未来へ向かっていける力を育てることを、研究の主題として設定し取組を進めてきました。そして、「私の応援計画」という一つの提案としてまとめることができました。今年度から始めた「生涯学習力」に関する取組は、これまでの研究をベースにした集大成という位置付けで考えています。

この研究紀要で示させていただいたように、1年目の今年は、学校卒業後も生涯にわたって学び続ける力とは？そのために学校において身に付けるべき力とは？という問いのもと、3つのワーキンググループに分かれて行った議論をまとめました。生涯学習力の基本的な捉え方とそれに基づいた授業づくりのポイントを、それぞれシンプルなキーワードの形で整理することができたことが、一つ目の成果です。また、これまで長い間学部というまとまりを中心に進めてきた研究体制から視点を変え、テーマ別に分かれた縦割りの職員集団を編成して意見交換を積み重ねることができたということが、もう一つの成果と言えます。さらに、生涯学習にかかわる実践者、研究者、関係機関の方に協力いただきながら、協働で研究や授業実践を進めることができたことも大変大きな成果です。今回ほど学校外部の方とやりとりをしながら研究推進をした経験は、本校では初めてかもしれません。御協力いただいた多くの皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

SDGs や Society5.0 のようなこれからの社会を捉える新しいフレームに倣いつつ、本校の研究は新しい1年目を終えることができました。これからの社会を生きる子どもたちの学びのプロセスと、教師の未来志向の研究システムが持続することを目指して2年目を迎えようと思います。

研究同人（2019年度）

校長	藤井 慶博	教諭	相原 淳
副校長	跡部 耕一	教諭	杉渕 陽子
教頭	相場 力	教諭	加藤 俊之
主幹教諭	高橋 省子	教諭	斎藤 明
教諭	目黒 晃子	教諭	阿部 圭但
教諭	島津 真奈美	教諭	石成 舞
教諭	伊藤 学	教諭	坂根 瞳
教諭	柳田 栄基	教諭	森田 紗也子
教諭	高橋 基裕	教諭	佐藤 美里
教諭	鈴木 暢子	教諭	伊藤 智華子
教諭	櫻田 佳枝	教諭	樋渡 実由梨
教諭	菊地 雄平	教諭	伊岡森 真由
教諭	本多 勝成	養護教諭	佐藤 麻衣子
教諭	下村 光行	教育系スタッフ	戸澤 睦子
教諭	黒木 良介	教育系スタッフ	南 彩瑛
教諭	栗田 寿		

研究協力者（秋田大学）

小学部	長 瀬 達 也
中学部	大 山 光 子（秋田大学教育文化学部附属小学校）
高等部	谷 村 佳 則

秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第42号別冊
 附属特別支援学校・令和元年度研究紀要 第46集

印刷・発行 令和2年3月
 発行 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
 〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
 TEL 018-862-8583
 FAX 018-862-8525
 HP <http://www.sh.akita-u.ac.jp>
 Mail fuyo@sh.akita-u.ac.jp
